海田の歴史と文化を訪ねて⑥

～千葉家旧蔵資料は語る～

生涯学習課　☎823－9217　FAX 823－9256

加藤棕廬（1790～1851）は、海田市ゆかりの広島藩儒です。家学の神儒学に通じていたほか、頼杏坪らとともに『芸藩通志』の編纂にも奔走しました。また、画人としても名が高く、優れた書画を残しています。

加藤家は休心の代に、広島城下から海田市に移住し、庄屋役を務めたほか、棕廬の曾々祖父に当たる十千の代より、広島藩儒に登用されています。

こちらに深い眼差しを向ける、小柄な道教の神仙「寿老人」。手に巻物をもち、長寿と自然との調和を表す牡鹿が寄り添っています。画面には、深い精神性が漂い、人を超える者、人ならざる者の神秘性を見事に描ききっています。

棕廬自身は、広島城下に居を構えていましたが、海田市ゆかりの人物であることから、書画を中心に、町内にもさまざまな作品が伝わっています。熊野神社に奉納されている『三十六歌仙絵馬』などにも、その足跡がみられます。宿場としてにぎわった海田市の、文化的側面に光を当てるとき、その存在は大きな意味を持つと考えられます。

◀寿老図

広報かいた11月号（No.545）　平成24年11月1日発行
発行／海田町　編集／企画部企画課
〒736－8601　広島県安芸郡海田町上市14番18号
TEL（082）823－9212　FAX（082）823－9203
ホームページ　http://www.town.kaita.lg.jp/
（携帯版）　http://www.town.kaita.lg.jp/mobile/
E-mail　kikaku@town.kaita.lg.jp
印刷／レターブレス　株式会社